

1 目的

本校は、明治からの学校で、近くには福島正則公生誕地の碑もあり、日頃から地域と深いつながりをもっている。地域の方に温かく見守られ、協力していただきながら学校教育を進めており、地域の力は、本校になくってはならないものになっている。そこで、より地域との連携を図り、地域の力を生かすことで、児童の自己肯定感を高め、児童をより健やかに育てていきたいと考えている。

また、変化の激しい現代社会を生き抜く力を児童に身につけさせることは、今日の教育の重要な課題であるとする。状況に合わせた目標をもち、前向きに考え行動するには、集団を包み込む、豊かな心の醸成が必要であるとする。

2 内容

(1) 地域との連携

ア Project MASANORI

福島正則公のことを少しでも知って卒業していつてもらいたいと始めたこの活動も3年目となり、児童たちの中に「福島正則」が浸透してきた。

特に、6年生は、福島正則公について調べると共に、実際に狂言を体験し、狂言の指導を受けた。2年目となる今年は、発表の場を学校行事の「合唱狂言発表会」に移しその成果を発揮した。NPOや学校運営協議会を通じて地域のボランティアを募集し、着物や浴衣、はかまの着付けなど、狂言の体験だけでなく日本の伝統文化に触れる機会となった。



＜狂言の演技指導＞



＜能管・小鼓の指導＞



＜狂言合唱発表会＞



＜狂言ガイドンス＞

さらに発表後、6年生が5年生に狂言を教える「子ども狂言ガイドンス」を行った。余裕をもって誇らし気に教える6年生と食い入るように見つめる5年生の姿には、「継承」という言葉がふさわしく、貴重な機会になったと思う。

また、1年生では『ふく王くんぬり絵』を行った。ぬり絵は、校長室前や来賓玄関に掲示し、来校者を温かく迎えている。2年生では『ふく王くんピザ』作りを行った。ピザの生地ミニトマトや輪切りにした夏野菜を並べ、オーブンで焼くこの学年行事は、皆が楽しみにしている。3年生では、校区探検の一環として正則公の菩提寺

である菊泉院や神明社古墳に立ち寄るなど地域の理解を深めることができた。6年生は今年も芳春軒店主を講師に招き、ふく王くんをモチーフにした『ふく王くんまんじゅう作り』を行い、保護者にプレゼントした。



＜ふく王くんぬり絵＞



＜ふく王くんピザ＞



＜ふく王くん饅頭＞



イ 親子ふれあい学級

継続事業として、毎年6月に行っている「親子ふれあい学級」では、地域の講師13名、アシスタント23名を招いて、親子で共に制作したり活動したりする講座を13講座設けた。講師の方の講座にかけける意気込みが感じられ、どの講座においても親子が楽しく真剣に取り組んでいた。親子で共通の目標に向かって活動するいい機会になっている。

ウ 農業体験学習

継続事業として毎年、全校児童が学校近くの畑でサツマイモの植え付けと収穫を地域の農業委員さんのご指導で体験させていただいている。土に触れる経験が少なくなった今日、サツマイモの苗植えや収穫は、とてもよい体験になっている。



＜ネギの植え付け＞



＜ネギの収穫＞

3年生は、サツマイモ以外にも郷土の農作物として有名なネギ作りを農家の方を講師に招いて、植え付けと収穫を体験した。

（2）豊かな心の醸成と健康づくり

歌声の響く学校は、児童の心を豊かにすると考え、朝や帰りの会で歌を歌うことや朝礼の後全校合唱の練習をするなど、歌う機会を確保してきた。講師の合唱指導により、発声に自信をもち、多くの児童が合唱のすばらしさを感じ取り、歌声の響く学校となった。10・11月には「合唱狂言発表会」、2・3月には「卒業式」に向けた合唱練習を中心に講師を招聘した成果が表れた。

（3）指導力向上

校内で「互いのよさを認め合い、よりよく生きようとする児童の育成ー議論につなげるための手立ての工夫ー」の研究を推進した。2年目の今年度は、道徳の授業で考え議論する経験を重ねることで、互いのよさを認め合い、自らの道徳性を高めていける児童を育ててきた。全員が研究授業を行い、検討会を行うことで指導力の向上が見られた。また、「コミュニケーション能力を高める」や「辞書引き学習」について、講師の先生を迎えて教員研修を行い、来年度に向け授業力向上を図った。



＜辞書引き学習の様子＞

3 評価と課題

地域に存在し、地域に支えられている本校にとって、逆に地域に向かって何かできることはないのか。そんな思いに駆られて、取り組んできたProject MASANORIであるが、年数を重ねることで「福島正則公に親しむ」だけでなく、継続して受け継ぐ活動になりつつある。今後は、「カリキュラムの中でどのように位置づけ、時間を確保するのか」「継続実施できる内容にしていけるか」が課題であると考えている。